

## 第19回独立行政法人農林漁業信用基金漁業信用保険業務運営委員会 議事概要

### 1 日時及び場所

- (1) 日時 令和7年2月18日(火) 9時55分～11時15分
- (2) 場所 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階  
独立行政法人 農林漁業信用基金 大会議室

### 2 出席者

- (1) 運営委員(出資者・学識経験者別 五十音順)  
出資者: 佐藤委員、高屋委員、田中委員、正木委員  
学識経験者: 伊藤委員、菅野委員、深川委員、宮本委員、山本委員
- (2) 信用基金  
牧元理事長、山根理事、鹿田理事
- (3) オブザーバー(主務省)  
茨島財務省大臣官房政策金融課課長補佐  
溝部水産庁漁政部水産経営課課長補佐

### 3 提出議案

- (1) 審議事項  
令和7年度年度計画(案)について
- (2) 報告事項
  - ① 漁業信用保険料算定委員会の結果について
  - ② 漁業信用保険業務運営の検証委員会の結果について
  - ③ 漁業信用保険業務の状況報告
- (3) その他  
委員からの情報提供

### 4 議事経過の概要及びその結果

上記3(1)について信用基金から説明がなされた後、審議が行われ、原案どおり承認された。その後、上記3(2)について信用基金から報告が行われた。さらに、上記3(3)について各運営委員からの情報提供等がなされた。

出席者からの主な質問・意見等は以下のとおり。

(○は運営委員、●は主務省、←は信用基金の応答。)

#### 【質問・意見等】

##### (1) 審議事項

資料1-1の「漁業信用保険の引受け」、「期中管理」及び「求償権管理」に係る令和6年度の取組について質問があり、参考資料1等により具体的な取組実績を説明。

- 7年度の計画は6年度の取組を踏まえたものと認識。関係機関との連携強化や基金協会への支援の促進などについて、信用基金の役割として十分認識されていると理解した。
- 信用基金の取組について、素案の段階や検討の状況などの途中経過について、全国漁業信用基金協会だけでなく他の基金協会にも共有をお願いしたい。

← 重要な検討事項については基金協会の各地区のブロック会議等で説明してきているが、ブロック会議が開催されていない地域もあるので、適切なタイミングで情報共有できるように工夫したい。

##### (2) 報告事項

( 質疑なし )

(3) その他

委員からの情報提供

- 保険料率について、同一の設備物件に対して近代化資金とセットで一般資金を利用する際、一般資金への付保は料率の高い事業資金の料率が適用される。同一案件であり事故率は同等と考えることから、一般資金でも近代化資金と同率の保険料率の適用とするよう検討をお願いしたい。可能であれば、令和8年度当初からの見直しを願いたい。
  
- ← 報告事項①で言及したとおり同様の問題意識を有しており、中期目標期間中に効果が得られるよう、早期に取り組む必要があると考えている。
  
- 実現できるかはわからないが、経営改善認定漁業者への保証料助成事業について、現状は近代化資金に限定されているが、一般資金も対象にできるよう令和8年度予算で運用改善ができればと考えている。そうすれば、公庫資金（漁業経営改善支援資金）との協調融資部分も助成対象となる。
  
- 赤潮対応につき感謝。期中管理をしていく中で、事業計画との乖離が見えた段階での対応について、具体的な手段等が必要と考えており引き続きご指導いただきたい。
  
- 沖合底曳漁業では、資材高騰や人手不足により事業継続が厳しい状況。機関長不足により操業停止状態の経営体や、船の定期検査前に事業廃止することを考えている経営体もある。今年は特に水揚げの落込みに加えて、魚の売れ行きも悪く事業継続の難しさを感じており、お力添え願いたい。
  
- 魚類養殖業は、4年連続赤潮被害が発生。行政の支えもあり前向きに輸出等に取り組んでいるが、米国の関税の問題などにより不安を抱える業者が多い。資材・餌飼料価格が高騰しているが、特に中堅規模の事業者への影響が大きく、事業廃止を計画している者も出てきている。他方、前向きに取り組んでいる事業者も多いので、設備投資等の支援を願いたい。
  
- 中小企業の景況感について、前期間から少し好転している。景気が良いといえる水準ではないが、コロナ禍収束以後回復傾向にある。原材料費、賃上げ負担、人手不足に苦しみながらも業況は少し良い方向に向かっている。  
一方で、保証協会の代位弁済の状況は、ゼロゼロ融資など公的サポートにより低水準であったが、原材料費高騰や人手不足が影響しR4年度以降徐々に増加している。
  
- 秋サケの漁獲量は良い時期の1/3程。地域間の格差が大きく、太平洋側は記録的な大不漁。種苗生産や稚魚放流も行っているが回帰せず、我々ができる範疇にない状態。ホタテは稚貝の斃死やラーバの付着不良、昆布は根付きが悪く時化で流されるなど、厳しい状況が続くと思われる。なんらかの支援が必要。

以上